



発行所
東温市田窪2135
愛媛県立
しげのぶ特別支援学校
印刷所
株式会社 松栄印刷所

桜梅桃李



校長 稲荷 邦仁

百三十名の幼児児童生徒と共に、しげのぶ特別支援学校の令和五年度がスタートしました。本校では、「チャレンジし続ける幼児児童生徒の育成」を知りたい、伝えたい、やってみたい」という重点努力目標の下、教職員一同力を合わせ、丁寧な指導・支援に努めてまいります。一方で、三年間にわたって私たちを苦しめた新型コロナウイルス感染症は、このたび、感染法上の分類が季節性インフルエンザと同じ「五類」に引き下げられました。しかしながら本校では、幼児児童生徒の実態を鑑み、「命を守る」ということを最優先し、急激な活動制限の解除は行わず、感染状況を見極めながら段階を踏んで制限を緩和していく方向で進めてまいりたいと考えております。御理解を賜りますようお願いいたします。

さて、表題の「桜梅桃李」という言葉ですが、前から順に「さくら」「うめ」「もも」「すもも」の四種類の木を並べた言葉です。これらの木に咲く花は、花びらの形、咲き方、香り、どれをとってもそれぞれ違いですが、共通点はどれも美しいということです。そこから、「桜梅桃李のそれぞれが美しい花を咲

かせるように、他人と比べることなく良さを生かして自分自身を磨くことが大切だ」という教訓を含んだ言葉として使われます。私は、この言葉を、本校の子どもたちにとってもマッチした言葉だと思っています。本校の子どもたちは、一人一人が素敵な個性を持っています。私たちは個性を伸ばすために、子どもの興味のあること、好きなこと、できること、得意なことに着目してそれを更に伸ばすという視点を重視したいと考えています。そのことは、子どもの意欲の高まりや、様々なことに積極的に取り組む姿勢、自信につながっていきます。自信が付くと苦手なことにチャレンジするという気持ち芽生え、結果として苦手なことの克服も期待できます。この視点は、本校の重点努力目標にも通じるものがあります。

令和五年度の年頭に当たって、一人一人の違いを認め合う学校、一人一人が大切にされる学校、全員が安心して生活できる学校づくりに、全職員が力を合わせて決意を新たに組み組んでまいりますので、皆様の御協力をお願いいたします。

部通信

すべては子どもたちのために

幼・小学部主事 道免 真紀

幼稚部・小学部は、年中児一名、一年生九名を迎え、計五十三名でスタートしました。新しい環境にも少しずつ慣れ、友達や担任と笑顔を交わしながら学校生活を過ごす姿を見てうれしく思います。

1人1台端末が普及し、年度始も様々な行事等でオンライン開催が通常となっています。学部全体での集合はまだ叶いませんが、教室を訪問し挨拶を交わす笑顔も、オンラインで画面に映った友達の顔や声に視線や耳を傾ける表情も輝いており、子どもたちにとつての関わりの大切さを実感しています。三年以上もコロナ対応のため、いろいろな場面で制限のある学校生活を送ってきました。基本的な感染対策は継続していきますが、教育活動の制限は少しずつ緩和されていく見込みです。これまでの教育実践の成果を生かしながら、本年度の教育活動が更に充実したものになるよう努めてまいります。

保護者の皆様との連携を大切にし、「すべては子どもたちのために」を合言葉に、幼稚部・小学部チームが一丸となり全力で取り組んでまいりたいと思っております。一年間どうぞよろしくお願いいたします。

新年度を迎えて

中学部主事 村上 礼

令和五年度の中学部は、十五名の新生を迎え、それぞれ二年生、三年生に進級した生徒たち、転入生一名の三十五名でスタートしました。

生徒たちは新しい環境にも慣れ、それぞれのペースで積極的に授業に取り組んでいます。各教室からは学習に励む楽しそうな声が聞こえており、充実した学校生活を過ごしていることが伝わってきます。

新型コロナウイルス感染症は五類に移行されましたが、幼児児童生徒の感染防止のため、校内での感染対策はほとんど変わりません。生徒たちが楽しみにしている学校行事については、感染防止対策を第一に、活動内容や方法を考え、工夫することで充実したものにしていきたいと考えています。

昨年、紹介した本の「人生には必ず予期せぬ出来事が起こるもの。現状は変化し続け、どのような出来事も、いずれは治まる。予期せぬ出来事は悪いこととは限らないと心に刻んで、柔軟に対処していこう。」という内容の通り、様々な活動制限があった三年間を柔軟に対応し乗り越えてきたからこそ、見えてきたもの、変わってきたことがあります。今後もそれらを大切に、日々の生活の中で楽しみを見付け、「正しく 明るく たくましく」前進していきたいと思えます。今年度も保護者の皆様の御協力と御支援をお願い申し上げます。

卒業後を見据えて

高等部主事 宮田 国光

高等部は、新入生十四名を含めた四十二名からのスタートです。ペースは違うけれど、みんな一生懸命。それぞれの良さが発揮できるように目標を立て、今年度が始まりました。

私は、今年も作業学習木工班のチーフとして生徒と一緒に木工製品を作ります。生徒たちがいろいろな機械や工具を使い、失敗しながらも上達していく自分に気付き、物作りが楽しくなる。

そして、商品価値の高いものになるよう作業に励む。製品が売れ、お客さんが喜んでくれるとうれしくなる。自分ができることを頑張つて認めてもらう。個性と職業がつながるような作業学習を目指し、生徒たちと楽しみます。

今年度から高等部のⅢ・Ⅳ類型（C・Dコース）では、一時間目に日常生活の指導の時間を取り入れ、卒業後を見据え生徒それぞれの実態にに応じて何が必要か？何を身に付けなければならぬいか？共に考え実践していこうとしています。我々教師は、いかに生徒たちの持つ力や能力を最大限に引き出すことができるかが課題でありやりがいです。成長する姿を保護者と一緒に喜び、生徒たちが晴れて卒業を迎えることができることを願っています。生徒一人一人に適切な進路実現が叶うよう、そして、生徒たちの生活が更に豊かになるよう保護者の皆様と話し合いを深め支援にあたりたいと思います。

今年度も御協力よろしく申し上げます。